

令和4年度決算の概況【ガス事業会計】

1 業務実績等

① 託送供給量は、商業用が増加しましたが、家庭用、工業用は大きく減少したことから、全体としては前年比3.8%の減少となりました。

	R4 A	R3 B	増減(A-B) 比率(A/B)	備 考
受入ガス量(千m3)	129,965	135,522	△ 5,557 95.9%	
一日平均(千m3)	356	371	△ 15 95.9%	
① 託送供給量(千m3)	134,834	140,099	△ 5,265 96.2%	
一日平均(千m3)	369	384	△ 15 96.2%	
託送供給件数(千件)	102	102	0 100.7%	
@供給単価(円/m3) (託送供給収益/託送供給量)	24.8	25.0	△ 0.2 99.2%	
@供給原価(円/m3) (@維持管理費+@資本費)/託送供給量	22.2	21.3	0.9 104.0%	
うち@維持管理費(円/m3) (維持管理経費/託送供給量)	14.5	13.6	0.9 106.5%	
うち@資本費(円/m3) ([減価償却費等+利息-長前]/託送供給量)	7.7	7.7	0 99.7%	

令和4年度に実施した主な事業

- ・ガスの安定供給のためのガス導管網の整備(松山町ループ化)(R4事業費:84百万円)
- ・宅地開発等による供給申請に伴う導管整備(R4事業費:209百万円)

令和4年度決算の概況【ガス事業会計】

〔単位：百万円〕

2 比較損益計算書

減収減益

①売上総利益は、託送供給収益の減少により前年比161百万円減の3,344百万円となりました。

②附帯事業収益及び費用はほぼ収支均衡しており、総営業利益は341百万円となりました。

③託送供給収益の減少から、経常利益は減少しました。

④固定資産売却に伴う特別利益がありましたが、託送供給収益の減少が影響し、純利益は前年比141百万円減の481百万円の計上となりました。

	R4 A	R3 B	増減額 A-B	備 考
ガス事業売上高	3,345	3,506	△ 161	
ガス売上	1	1	0	LPG売上
託送供給収益	3,344	3,505	△ 161	
営業費用のうち売上原価	1	1	0	
売上原価	1	1	0	LPG売上原価
① 売上総利益	3,344	3,505	△ 161	
営業費用	3,019	3,008	11	
供給販売及び一般管理費	3,019	3,008	11	
維持管理費	1,897	1,856	41	
減価償却費	1,061	1,095	△ 34	
固定資産除却費	61	57	4	
営業利益(損失は△)	325	497	△ 172	
営業雑収益	415	382	33	
受注工事収益	415	382	33	
その他	0	0	0	
営業雑費用	404	375	29	
受注工事費用	404	375	29	
営業総利益	336	504	△ 168	
附帯事業収益	157	162	△ 5	
特定事業収益	157	162	△ 5	ガス料金收受等に係る収益
附帯事業費用	152	157	△ 5	
特定事業費用	152	157	△ 5	ガス料金收受等に係る費用
② 総営業利益	341	509	△ 168	
営業外収益	91	109	△ 18	
受取利息	26	24	2	
他会計負担金	5	32	△ 27	児童手当繰入金
長期前受金戻入	26	20	6	
雑収益	34	33	1	
営業外費用	20	21	△ 1	
雑支出	20	21	△ 1	不用品売却原価
③ 経常利益(損失は△)	412	597	△ 185	
特別利益	77	25	52	固定資産売却益
特別損失	8	0	8	
④ 当年度純利益(損失は△)	481	622	△ 141	
前年度繰越利益剰余金 (その他未処分利益剰余金変動額)	0	0	0	
当年度未処分利益(未処理欠損は△)	481	622	△ 141	

令和4年度決算の概況【ガス事業会計】

[単位:百万円]

3 比較貸借対照表

- ①自己資本比率は、無借金状態であることから依然高い水準となっています。
 ②流動比率は前年度より減少しましたが、依然高い水準を維持しています。
 ③事業収益対企業債残高比率は、平成27年度より完全無借金となったことから、算定不能となっています。

	R4 A	R3 B	増減額 A-B	備 考
資産の部				
固定資産	19,174	19,328	△ 154	
有形固定資産	11,447	11,575	△ 128	
帳簿価額	51,644	50,935	709	供給設備+713、業務設備△4
償却累計	△ 40,288	△ 39,411	△ 877	
建設仮勘定	91	51	40	
無形固定資産	79	105	△ 26	
投資その他の資産	7,648	7,648	0	
流動資産	12,378	11,476	902	
現金預金	11,130	10,187	943	
売掛・未収金(正味残高)	794	839	△ 45	
売掛・未収金	794	839	△ 45	
貸倒引当金	0	0	0	
有価証券	400	400	0	満期保有目的有価証券
貯蔵品等	54	50	4	
資産合計額	31,552	30,804	748	
負債の部				
固定負債	635	651	△ 16	
引当金	635	651	△ 16	
流動負債	2,204	1,942	262	
買掛・未払金・未払費用	411	485	△ 74	
前受金	165	162	3	
引当金	42	39	3	
預り金ほか	1,586	1,256	330	ガス料金の上昇による増 +330
繰延収益	305	283	22	
長期前受金	400	356	44	
収益化累計	△ 95	△ 73	△ 22	
負債合計額	3,144	2,876	268	
資本の部				
資本金	24,927	24,306	621	
資本金	24,927	24,306	621	前年度組入 利益処分20 当年度組入 建設改良積立の取崩601
剰余金	3,481	3,622	△ 141	
資本剰余金	0	0	0	
利益剰余金	3,481	3,622	△ 141	
積立金	3,000	3,000	0	災害対策積立3,000
当年度未処分利益	481	622	△ 141	
資本合計額	28,408	27,928	480	
負債・資本合計額	31,552	30,804	748	

	指 標	R4	R3	増減	指標の説明
①	自己資本比率	90.0%	90.7%	-0.7%	総資本のうち自己資本の占める割合を示し、比率は高いほど経営の安定性は大きい。
②	流 動 比 率	561.6%	590.9%	-29.3%	短期の支払い能力を示す指標。比率は100%以上が望ましい。
③	事業収益対企業債残高比率			無借金につき算定できない	借金が収入の規模に見合っているのかを図る指標。過度に高い場合は将来世代の負担が高まっている可能性があります。

令和4年度決算の概況【ガス事業会計】

〔単位：百万円〕

4 剰余金の処分

- ①繰延収益相当額を自己資本金に組み入れます。
②建設改良積立金を積み立てます。

当年度末未処分利益剰余金		481
利益剰余金処分数額		
	① 条例第4条の5による処分数額	△ 481
	② 自己資本金組入（繰延収益相当額）	△ 26
	② 建設改良積立金の積立	△ 455
処分後残高（繰越利益剰余金）		0

5 キャッシュ・フロー計算書

☆業務C/F(1,756百万円)から、投資C/F(813百万円)を差し引いた金額がプラス(+943百万円)となっており、本業で投資を賄える状態です。資金についても期首より期末のほうが増加しています。

	R4 A	R3 B	増減額 A-B	備考
1 業務活動によるキャッシュ・フロー	1,756	1,773	△ 17	
2 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 813	△ 883	70	
3 財務活動によるキャッシュ・フロー	0	0	0	
資金増加額（又は減少額）	943	890	53	
資金期首残高	10,187	9,297	890	
資金期末残高	11,130	10,187	943	

【総括】

経営成績については、主に家庭用や工業用のガス需要が大きく減少したことに伴い、託送供給収益も大きく減少し、昨年度を下回る当年度純利益となりました。今後も市域でのガス供給量は減少傾向にあることを踏まえると、収益の大幅な増加は期待できず、より効率的な業務執行と経費の節減を継続していく必要があります。

このような中、効率的な業務執行と経費の節減を図りながら、安全・安心にガスを供給するため、中長期経営計画(経営戦略)に基づき、計画的な導管整備や災害対策、ガス施設の安全管理、大津市ガス特定運営事業等に係るモニタリングに引き続き取り組んでいきます。